

## 平成 29 年度 岡崎幸田災害医療対策本部設置・運用訓練 (10 月 14 日) 課題と対応

訓練内容	課題	対応
<p>本部設置訓練 (会場設営訓練)</p>	<p>○本部の設置場所について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西尾保健所職員が、岡崎市保健所に預けてある通信機器を受け取りに行き、岡崎市民病院へ運んだが、休日に、部外者が、事務室に入るのは、難しかった。発災時には、もっと難しくなる。(西尾保健所)</li> <li>・会議室内だとMCA無線が繋がらないため、情報収集事務に支障がある。(幸田町)</li> </ul> <p>○医療対策本部及び市民病院災害対策本部の設置場所について (岡崎市)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療対策本部は衛星携帯電話等の通信環境の関係から、市民病院災害対策本部とは異なる会議室に設置した。</li> <li>・医療対策本部と市民病院災害対策本部との連絡調整のため会議室間を往復する必要があった。また、設置場所が異なることで市民病院災害対策本部の状況を把握しづらかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡崎市保健所の職員に、岡崎市保健所の物資と一緒に、岡崎市民病院へ運んでいただく。 通信機器の設置は、原則、西尾保健所職員が行うこととするが、西尾保健所職員の参集が遅れた場合は、岡崎市保健所職員にお願いする。</li> <li>・設置場所の変更やその他の通信手段の検討等の策が必要である。</li> <li>・医療対策本部、市民病院災害対策本部の設置場所については、通信、本部間の連携等を考慮して検討する。</li> </ul>

訓練内容	現状と課題	対応
<p>本部設置訓練 (通信機器関係)</p>	<p>○通信インフラについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岡崎市保健所に預けてある衛生電話は、スムーズに設置ができ、発信することもできたが、西尾保健所にあるもう1台の衛星電話については、設置が難しく、発信も手間取った。(西尾保健所)</li> <li>・今回の訓練において、NTT 回線不通の場合の代替通信手段は以下の2つ。(岡崎市)</li> </ul> <p>① 衛星携帯電話(ドコモ) ※岡崎市保健所内で保管(H28.4～)</p> <p>通話のみ。ネット(EMIS 災害医療情報システム) 接続不可</p> <p>② 携帯WiFi ルータ ※県から救急用に配備</p> <p>訓練では、ネット接続でき、救急用PCから問題なくEMIS(災害医療情報システム)が利用できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・MCA無線以外の通信手段の訓練を行う。(幸田町)</li> <li>・無線LANで使用できるPCや災害時優先携帯電話の所有が困難である。(幸田町)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西尾保健所保管の衛星電話について、年数回、動作確認をして、各職員が使えるようにしておく必要がある。</li> <li>・来年度は衛星携帯の通話訓練を行う。事前に操作方法の確認が必要。</li> <li>・防災担当部局や情報関連部局とも調整を図り、予算要求をしていく。</li> </ul>

	<p>○通信訓練について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療対策本部が置かれた会議室内に、携帯電話の画面上では電波状態が良好であるにも関わらず着信ができないエリアがあった。当該エリアに携帯電話が置かれていた場合、着信があっても分からない恐れがある。(岡崎市)</li> <li>・電話番号が正しいのか、どこへ電話しているのか都度書類を確認する時間を要していた。訓練では携帯電話の電話番号を確認できるが、発災時にすぐに確認する手段が乏しい。(岡崎市)</li> <li>・現状、市内病院から災害対策本部へ、医療救護所から支援担当者へそれぞれ連絡が行くようになっている。連絡が取れなかった等の連携としてその他の連絡経路についても考慮する。(岡崎市)</li> <li>・衛生電話と訓練参加者の携帯電話との通信確認を行ったが、西尾保健所保管の衛星電話については、西尾保健所で設置し、通信訓練を行うべきであった。(西尾保健所)</li> <li>・MCA無線は電源や電話使用ができるようなら、保健センターの内線電話との通信が可能であるため、対策本部と保健センターの通信訓練もすべきであった。(幸田町)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本部の携帯電話の設置場所については電波状況によらず、着信が可能であるか確認を行う。</li> <li>・携帯電話のアドレス帳にそれぞれ登録する。</li> <li>・マニュアルで整備</li> <li>・実際の発災時には、西尾保健所に職員も詰めるので、来年度の訓練では、西尾保健所に職員を配置し、通信訓練を行う。</li> <li>・来年度は訓練で実施していく。</li> </ul>
--	--	--

訓練内容	現状と課題	対応
<p>病院・救護所の稼働状況把握訓練</p>	<p>○EMIS（災害医療情報システム）への情報入力について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアルの画面と実際の画面が異なっており、病院の情報の代行入力ができなかった。（西尾保健所）</li> <li>・今回の訓練では EMIS 代行入力と並行して、主な情報についてライティングシートを使用したクロノロ（時系列記録）を行い、状況の把握を図った。（岡崎市）</li> <li>・本部要員は電話対応や EMIS 代行入力、市民病院本部との調整に加えてクロノロ記入が必要となったが、本部要員の参集状況によっては対応が困難になる可能性がある。（岡崎市）</li> <li>・今回は県の PC を借りて入力を行ったが、担当職員以外でも EMIS のシステムを使える必要がある。（幸田町）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県本庁の医務課の担当者に、入力方法を確認した。今後は、このようなことがないように、毎月の EMIS 入力訓練でテスト入力を行っていく。各職員も、毎月、EMIS 入力訓練を行って、EMIS を熟知しておく必要がある。</li> <li>・クロノロへの記載方法の統一が必要。</li> <li>・本部要員には本部への参集が見込める近隣の職員を任命するなど、人員確保の方法について検討の必要がある。</li> <li>・毎月行われる EMIS 入力訓練でテスト入力を行い、どの職員も EMIS の入力や情報取得ができるようにしておく。</li> </ul>

訓練内容	現状と課題	対応
<p>その他</p>	<p>○訓練全体としての反省点について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西尾保健所は、準備が不十分であった。(西尾保健所)</li> <li>・幸田町としての準備が不十分であり、実災害を想定した訓練ができなかった。(幸田町)</li> </ul> <p>○本部が設置された場合に、必要な物品 (西尾保健所)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライティングシート、ホワイトボードマーカー、セロテープ、延長コード</li> </ul> <p>(幸田町)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①幸田町全図 後方支援病院(京ヶ峰岡田病院)や救護所を地図に落としこんでおくとよい。</li> <li>②EMISで使用するパソコンとインターネット接続環境 救護所の状況を周知するため、EMISが使用できる環境が必要。岡崎市、西尾保健所も持っているが、幸田町で1台確保できるとよい。</li> <li>③その他必要な物品 災害拠点病院冊子、医療活動計画、保健師活動マニュアル、救護所設置状況報告書、EMIS入力マニュアル、ライティングシート、ホワイトボード用マーカー、サインペン、セロテープ</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度は、今年度の反省を踏まえて、十分な準備をして臨む。</li> <li>・救護所立ち上げの流れや模擬患者等を含め、事前に想定を決めておき、通信手段の訓練や被害想定を本部としてまとめる訓練、幸田町でPCを持ち込み、EMIS入力を行う等の訓練も必要である。</li> <li>・西尾保健所で購入し備えておく必要があるが、発災時には、西尾保健所の職員は、直接、岡崎市民病院へ参集するため、結局は岡崎市保健所が持参した物品を使わざるを得ない。後日、使った分について、岡崎市保健所に物品を補充する。(西尾保健所)</li> <li>・準備しておく必要がある。(幸田町)</li> </ul>